

学園タイムス

Sagaseishigakuen times

Vol. 1

- 発行日：平成 25 年 4 月 1 日
- 発行元：社会福祉法人 佐賀整肢学園
- 発行者：理事長 中尾清一郎
- 編集：法人広報誌編集委員

2013.4.1 創刊号

～ 日の隈山より佐賀平野を望む ～



社会福祉法人 人を支える 生活を支える

佐賀整肢学園

SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

巻頭挨拶

広報誌の発刊に寄せて

社会福祉法人 佐賀整肢学園
理事長 中尾 清一郎



佐賀整肢学園は1960(昭和35)年の開設以来、行政や地域の皆様に支えられ、今日の拡充を見るに至りました。この間の役職員の努力、日夜たゆまない医療・介護現場でのお仕事に深い感謝と敬意を表します。

福祉の仕事は崇高ですが、一方でれっきとした経済行為でもあります。人間社会での福祉は当初は為政者や富裕層の慈善行為として始まりましたが、現代社会は福祉行政の手厚さが国民の幸福度を左右すると言って過言ではありません。日本社会は敗戦の混乱から立ち上がり、短期間で経済大国への道を駆け上がりました。それは経済発展スピードに医療や福祉が追いつけなかった歴史でもあります。考えてみればバブル期の処理に、いったいどれほどの国富が傾けられたか。経済政策と福祉・医療政策は車の両輪でなければならない課題であったことが改めて理解できるでしょう。職業としての医療や福祉を目指す人たちに理想や奉仕の精神が不可欠です。一方でそのような人材を支える経済や社会制度の整備も同じように重要です。私たちはややもすると目の前の現実対応に追われるあまり、政治や経済の動きに疎くなってしまっていないでしょうか。あるいは混迷する政治に失望し、有権者、権利と義務を持つ国民としての意識が希薄になっていないでしょうか。

日本は人類が経験したことのない高齢・人口減少社会に突入しています。国家財政は厳しさを増し、現場から声を上げなければ弱者は切り捨てられ、特に障害者福祉の現場はそのしわ寄せを最も強く受け

る可能性があります。世界のトップを切って超高齢社会に乗り出す日本の舵取りが、後に続く国々の規範となり、時には反面教師にもなります。ここで日本社会のよい部分が発揮されなければなりません。質素節約を尊ぶ価値観、他者への配慮、それぞれの持ち場での創意工夫といった、細かな努力の積み上げが必要です。一方で政治は国民に対し医療・福祉のコストを明示し、中程度の税負担で老後の不安を賄える制度設計を行わなければなりません。日本の消費税率は先進国中最低、一方企業の法人税や高所得者の所得税は世界最高水準という、一見公平、実は誤った社会主義的税制の国です。この制度下では賃金は上がらず、非正規雇用ばかりが複雑化し、富裕層や一定の資産のある高齢者はお金を使わない「巨大なタンス預金国家」が形成されます。ここに来てやっとな日本の個人資産の多くを保有する高齢者層から若年層への所得移転が議論されるようになりました。しかし、質素勤勉で育った世代は貯蓄が何よりの美德です。ならば国民等しく亡くなるまで国家が面倒を見る、その代り税負担はある程度上がる、法人税を軽減し企業は賃金を上げ、高齢者は資産を子や孫の世代に譲ることができる制度構築を行うのがこれから求められる政治・政策の姿です。

私たちは福祉に従事する者であると共に日本国民、世界市民でもあります。

佐賀という地方にあって、国や世界の情勢に関心をもち、知的に賢く生きる姿を、私は美しいと思います。



社会福祉法人 人を支える 生活を支える
佐賀整肢学園
 SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

あゆみ

昭和35年4月中尾都昭初代理事長と県内の有志の方々によって、社会福祉法人佐賀整肢学園の母体となる肢体不自由児施設が佐賀市金立町に設立されました。当時は整形外科の治療と同時に義務教育を実施し生活指導と共に独立自活を目指した訓練が行われていました。当時の佐賀新聞には「廊下には特別な手すりがつけれ、浴場もすわったまま入れる特別づくり」と、現在では当然のバリアフリー設備のことが驚きをもって特記されており、整肢学園が当時いかに画期的な県内最先端の施設だったことがうかがえます。また設立翌年の昭和36年には、早くも昭和天皇・皇后両陛下の御行啓を賜りました。その後も皇族方のご訪問が幾度かあり、近年では、平成16年に、皇太子殿下の行啓を賜っています。

佐賀整肢学園の肢体不自由児施設が誕生してから半世紀、この間、福祉や障害者と社会の関わりは劇的にかわり、それに伴って地域社会の要望も変化してきました。その変化に対応すべく、佐賀整肢学園は入所児童の療育・訓練等の施設や設備の機能向上に努めるとともに、昭和56年には、重度の重複障害児のための重症心障害児施設の併設、平成9年に障害者支援施設（オックス）、10年に特別養護老人ホーム（かんざき清流苑）、そして14年には唐津市に総合福祉施設（からつ医療福祉センター）を開設。また平成20年、21年には佐賀県立の救護施設、養護老人ホームの経営を相次いで引き受け、県内6カ所で多岐にわたる幅広い福祉サービスを行っています。グループ全体の職員数は約800名。これまでもこれからも、佐賀県への先進的な地域医療福祉の拠点を目指して地域のみならず県に

●主な事業開始

- 昭和33年10月 昭和34年度お年玉付年賀はがき多額配分による
肢体不自由児施設設立を決定
- 34年8月 財団法人佐賀県肢体不自由児施設設置協議会設立認可
- 35年4月 ●肢体不自由児施設佐賀整肢学園設立（定員30名）
- 8月 社会福祉法人佐賀整肢学園設立認可
- 36年4月 天皇・皇后両陛下下行幸啓
- 37年6月 高松宮殿下御夫妻お成り
- 51年10月 秩父宮妃殿下お成り
- 56年4月 ●重症心身障害児施設佐賀第二療育センター設置認可 定員40名
- 平成元年4月 ●身体不自由児施設通園部ひよこ教室新設 定員30名
- 7月 [名称変更] 佐賀整肢学園ひまわり園（肢体）、
佐賀製紙学園たんぽぽ園（重心）、
佐賀整肢学園ひよこ教室（肢体通園）に改名
- 8年7月 秋篠宮御夫妻お成り
- 9年4月 ●身体障害者療護施設佐賀整肢学園オックス設置認可 定員50名
- 5月 [名称変更] 佐賀整肢学園こども発達医療センターひまわり園（肢体）、
佐賀整肢学園こども発達医療センターたんぽぽ園（重心）、
佐賀整肢学園こども発達医療センターひよこ教室（肢体通園）に改名
- 10年1月 ●重症心身障害児（者）通園事業運営開始（こどもセンター） 定員15名
- 4月 ●特別養護老人ホーム佐賀整肢学園かんざき清流苑施設認可 定員50名
- 10月 老人居宅介護等事業運営開始
《清流苑》（デイ、ヘルパー、介護センター）
- 12年4月 介護保険在宅サービス事業運営開始
《こどもセンター》（訪問看護、訪問リハ、居宅介護支援）
- 14年4月 ●重症心身障害児施設から医療福祉センターアルト設置認可 定員32名
●身体障害者療護施設から医療福祉センター久里双水園施設認可 定員52名
●知的障害児通園施設から医療福祉センターまほうくり教室施設認可 定員20名
- 15年12月 ●認知症対応型共同生活介護事業佐賀整肢学園かんざき清流苑運営開始 定員9名
- 16年4月 皇太子殿下行啓（からつセンター）
[定員変更]《こどもセンター》肢体不自由児施設 定員40名、
重症心身障害児施設 定員120名
- 17年4月 託児所開設《こどもセンター》
- 18年4月 指定介護予防事業運営開始《オックス》《清流苑》
- 10月 障害者自立支援法に基づく在宅サービス等運営開始
《こどもセンター》《オックス》《からつセンター》
- 20年4月 ●救護施設佐賀整肢学園かんざき日曜限養護運営開始 定員70名
- 21年4月 ●養護老人ホーム佐賀整肢学園佐賀向陽園運営開始 定員80名
●福祉ホームくるみの家運営開始《からつセンター》 定員9名
- 22年4月 ●就労継続支援B型事業くるみランドリー運営開始
《からつセンター》 定員10名
[定員変更]《こどもセンター》肢体不自由児施設 定員20名、
重症心身障害児施設 定員140名
- 7月 身体障害者療護施設から障害者支援施設へ移行
《オックス》《からつセンター》
- 23年7月 ●居宅介護支援センターむいらい運営開始 通所介護定員20名
- 23年10月 ●福祉ホームさくら運営開始（オックス） 定員9名
- 24年4月 ●医療型障害児入所施設運営開始
（こども発達医療センターひまわり園 定員160名）
●療養介護事業所運営開始
（こども発達医療センターたんぽぽ園 定員160名、
からつ医療福祉センターアルト 定員39名）
●児童発達支援センター運営開始
（こども発達医療センターひよこ教室 定員15名、
からつ医療福祉センターまほうくり教室 定員20名）
●児童発達支援事業運営開始
（からつ医療福祉センターアルトあかり 通所定員5名）
●生活介護事業運営開始
（こども発達医療センター 通所定員15名）
●特定・障害児相談支援事業運営開始
（こども発達医療センター、オックス、からつ医療福祉センター）
●放課後等デイサービス事業運営開始
（こども発達医療センターからつ医療福祉センター）
●保育所等訪問支援事業運営開始
（こども発達医療センター、からつ医療福祉センター）
●日中一時支援事業運営開始
（こども発達医療センター、からつ医療福祉センター）

基本理念・基本方針について

当法人は時代の要請に応じて、設立時の肢体不自由児施設の経営から、重症心身障害児施設、身体障害者支援施設、老人福祉施設、救護施設まで、多種多様な福祉施設を経営する総合的な社会福祉法人へと発展を遂げてきました。法人組織の大規模化に対応し、法人内各施設に勤務する職員の佐賀整肢学園職員としての一体感を醸成し、ともに共通の目標に向かって事業活動に取り組むために、法人の基本理念および基本方針が以下の様に定められました。

地域における医療福祉の拠点施設としての役割を果たせるよう、先進的な取り組みを積極的に行い、利用者の日々の暮らしが明るく充実したものになるように、職員一人一人の自己研鑽を目指して、地域との緊密な連携の中歩みを続けていくことの必要性がうたわれています。

基本理念

「感性」「先進」「情熱」—— 時代の要請を的確に把握し、総合力を高めて医療・福祉サービスの提供に、先進的かつ積極的に取り組む。

基本方針

利用者本位 —— 利用者とその家族の思いをわが思いとして、利用者の明るく、充実した暮らしの実現に努める。

自己研鑽 —— 医療・福祉の専門職としての誇りと熱意を以て、常に自己研鑽に努め、利用者の処遇向上を図る。

地域貢献 —— 地域の医療福祉の拠点施設として、その機能と役割を十分に発揮して、地域社会との連携と交流促進に努める。

シンボルマークとキャッチフレーズ



社会福祉法人 人を支える 生活を支える
佐賀整肢学園
 SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

イラストが佐賀整肢学園のシンボルマークです。ハート型は自身・利用者やその家族・社会・医療・福祉などを表しています。ハートの上に「S」が2つ交錯しているのは、佐賀整肢学園（Saga Seishi gakuen）がそれらのハートを結び付けているという意味を込めています。「希望」「誠実」「愛情」「幸運」を象徴するクローバーがモチーフです。

また「人を支える、生活を支える」というキャッチフレーズが制定されています。

利用者やその家族への責任と自律するための意志が、このキャッチフレーズには込められています。

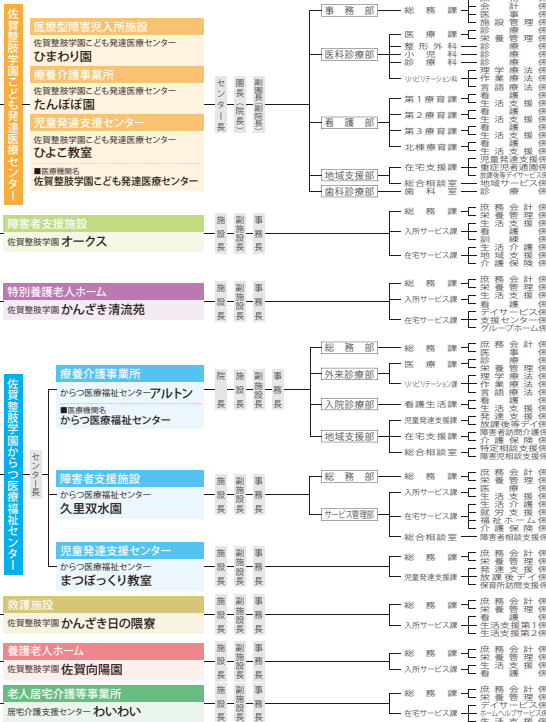
これらの制定にあたっては、平成22年に行われた佐賀整肢学園創立50周年記念事業の一環として、法人内全職員からシンボルマークとキャッチフレーズの公募を行い採用されました。

組織一覧表

社会福祉法人 佐賀整肢学園 組織一覧表

(平成25年4月1日現在)

- 理事会 8名
- 理事長 1名
- 副理事長 1名
- 理事 4名
- 常務理事 2名
- 監事 2名
- 評議員会 23名
- 法人事務局



■佐賀地区



■神埼地区



■唐津地区



各種報告

理事会・評議員会（法人本部）

平成24年11月26日に、第4回理事会・第3回評議員会が開催されました。第3回評議員会で、8名の理事が選任（任期 平成24年12月15日～平成26年12月14日）されました。第4回理事会におきまして、報告事項として、佐賀整肢学園・かんざき清流苑サービス付き高齢者向け住宅及び居宅サービス事業所新築工事の進捗状況についてなど2件の報告がなされました。また、理事長、副理事長、常務理事の互選、からつ医療福祉センターの職員、有期契約職員の就業規則一部改正、佐賀整肢学園こども発達医療センター託児所増築工事請負契約の締結について（案）など11件の議案について審議し、原案どおり議決されました。協議事項に関しては、佐賀整肢学園・オックス「デイサービスセンター建設」及び「短期入所事業」の拡充について協議が行われています。

・開催場所 佐賀整肢学園こども発達医療センター3階会議室

・出席者【理事】中尾清一郎 安永 宏 横尾 通正 馬場 昌平 日野 康英
窪田 秀明 原 寛道 寺崎 敏光 計8名
【監事】野口 健 計1名
【欠席監事】高橋 勝明 計1名

TWI管理監督者セミナー開催（法人事務局）

昨年度より、佐賀県職業能力開発協会から講師をお招きし、TWIセミナーを2日間の日程で開催しています。TWIセミナーとは、人に仕事を伝える・教えるための技能を向上させるための講習です。佐賀整肢学園では法人各施設から選出されたリーダー・指導的立場にある職員に対して10時間の講義2回を基本単位として受講をしていただいています。長丁場になる研修の最後には、佐賀県職業能力開発協会から受講認定証が授与されます。今後も引き続きこのような研修会を実施していく予定にしています。

法人内施設パソコン研修会（法人事務局）

今年度より、からつ医療福祉センターで行っていた職員向けのパソコン研修会を、法人内各施設で実施しています。第1クール目の今回は、法人内各施設におきまして、ファイルメーカーについての基本的な実技の研修会を、1時間ほどで行いました。実際にパソコンを目の前において、操作しながらの忙しい講義でしたが、参加者の皆さん集中して受講されていました。職種に関係なく、業務においてパソコンを使用する機会が多くなってきている現状において、少しでも業務の負担を軽減できればとの趣旨で実施されている研修です。今後も業務におけるパソコン使用に少しでも慣れていけるように研修会を企画していきたいと思っています。



からつ医療福祉センターでの研修会の様子

■ 民間社会福祉施設等職員海外研修・調査（北米班）の報告

かんざき日の隈察

入所サービス課・総務課長 大島 毅

今回、縁があって、財団法人社会福祉試験振興センターが主催している民間社会福祉施設等職員海外研修・調査（北米班）に参加することができました。この研修は、全国から集まった福祉施設関係者16名と共に、2週間の日程で北米（ニューヨーク、シカゴ）にある障害福祉関係の行政機関、各種団体、施設等を視察・調査するというものです。研修前から、アメリカという大国・他民族国家の障害者福祉制度、具体的支援内容に大きな関心を持ち研修に臨みました。

実際に渡米し、行政機関で説明を受け、まず感じたことは、制度政策が日本と似ているということでした。もちろん、日本には存在しないような団体や組織もありましたが、大規模施設が解体され、地域移行が推進されているアメリカの状況を目の当たりにし、日本の近い将来を見ているような気がしました。

次に、各福祉事業者や各種団体を訪問し、スタッフと接して感じたことは、常に前向きに取り組まれているということでした。アメリカの障害者福祉の流れも、必ずしも事業者にとってよいことばかりではありません。しかしながら、事業者は、障害者の生活全般に目を向け、創意工夫を凝らした事業を展開し明るく前向きで、日本にはない強いパワーを感じました。

歴史や文化も異なるアメリカの制度は、州の財政事情や地域によって大きく異なり、日本にそのまま導入できないものも多かったです。それでも、スタッフの「利用者への思い」という点では、日本と何ら変わりなく、日本から来た同業者に関心を持ち、温かく迎えてくれました。

今回、貴重な体験を通して、多くのことを学び、少しでも知見を広げることができたと思います。また、16名の新しい仲間とネットワークを構築できたことも研修の大きな成果でした。昨今、日本でも社会福祉法人・施設の実存意義が問われていますが、地域で必要とされる施設を目指し、自己研鑽に努めていきたいと思っています。



前列右が筆者

■ 第40回九州障害者支援施設研究大会

オークス 入所サービス課

内田剛志・佐藤信仁・寺井雄二

平成25年2月13日～15日までの三日間、第40回九州障害者支援施設研究大会が開催されました。その中で今回私たちが発表させて頂いた、第二分科会「日中活動の実践発表」の内容を、簡単にですがご報告させて頂きます。

当事業所で行った入所利用者への日中活動に関するアンケート調査では、従来の日中活動の内容には、満足が得られていないという結果を得ました。それまでの日中活動は、既存の活動内容にそれに近いと考えられる利用者の希望を、職員主導で当てはめていました。その反省から、活動内容を既存の日中活動にとらわれず、利用者の希望と活動内容が一致することを目指していくつかの新しい日中活動に取り組みました。

その結果、参加者からは以前の活動よりも満足との声が増えました。分科会の質問では、細かい利用者の希望に応じれば応じる程、参加出来る1回当たりの参加利用者数が減り、全体としては参加できる頻度が減ってしまう。長期的な視点で見ると満足度は低下しかねないのではないかというなどの意見が挙げられました。利用者の方からは参加したくない活動が何回もあるよりも、自分がしたいと思った事を少なくとも実施してもらった方が嬉しいとの声もありますが、確かにそういった点も考慮する必要があると思います。

日中活動の「頻度」と「内容」については今後の利用者の声も聞きながら今後も工夫していくべきだとは思いますが、まずは今回従来の内容ありきの日中活動から、利用者の希望ありきの日中活動へシフトできたことは前進だったと思います。

サービス提供の土台となる制度も変化していく中で、利用者のニーズに対応する私たち事業者が果たすべき役割は、多様性や個性が求められると思います。今回のような意見発表や情報交換を通して、今後も良いサービスの在り方を模索・実践することを継続していきたいと思っています。利用者、地域に選ばれ、満足される施設でありたいと強く感じることができた研究大会でした。



事業所 TOPICS

こども発達医療センター



成人式・還暦を祝う会

成人の日を前にした1月10日に、こども発達医療センター利用者のうち、成人を迎える6名と還暦を迎える1名の方を対象に、成人式・還暦を祝う会を行いました。当日は保護者の方も来園され、記念品と花束が贈呈されました。幅広い年齢層の方が利用されることも発達医療センターの特徴的な行事として、数年前より成人と還暦を同時にお祝いでいます。新成人を小さい頃から知る職員にとっては「もう成人になられたんだ」という喜びもさることながら、月日の流れの早さを実感する行事となりました。

オークス

地域の方や家族会の皆さんと一緒にしている毎年恒例のオークスもちつき会。もちつきは、お米が取れたことを先祖に感謝し、来年も豊作であることを願うためです。丸い形は神を意味し、食べることによって、神の力を授かると言われています。

オークスホールでは、杵をおろすごとに利用者の皆さんの「よいしょ！よいしょ！」のかけ声が響き、ねばりのあるおいしい餅を搗くことができました。搗き上がった餅をよごれ餅、あんこ餅、きなこ餅にして、来年も良い年になるように願いながら、おいしくいただくことができました。

もちつき会



かんざき清流苑



三社参り

かんざき清流苑デイサービスでは、利用者の方々に季節感を味わって頂けるような施設外での活動プログラムを行っています。介護予防の方を対象とした苑外活動、また、誕生月の方を対象としたドライブ等、利用者の個々に合わせた内容を計画し定期的に実施しています。その中の一つとして1月には神埼市にあります八天神社、仁比山神社、櫛田宮への三社参りに行ってきました。寒い中での参拝でしたが、皆さん思い思いにしっかりと祈願されていました。

センター内学会

1月19日に第8回「センター内学会」が開催されました。センター内各部署の取り組みの紹介や、症例研究など毎年職員の学術研鑽の場となっています。今回は障害者虐待に関する職員へのアンケート調査の報告や当センター独自のエコアクション21の取り組みの紹介、重症児者への療育の紹介、給食ができるまで、など大変興味深い発表ばかりでした。学会参加者は100名を超え、活発な質疑応答や意見交換が行れた充実した学会となりました。



からつ医療福祉センター

クリスマス会



かんざき日の隈寮

12月25日に3階地域交流ホールにてクリスマス会を実施しました。職員によるハンドベル演奏で始まり利用者全員でクリスマスソングを歌いました。またの当てゲームやビンゴゲームのレクリエーションを行い、大変盛り上がりました。サンタクロースに扮した江里口施設長から利用者全員にクリスマスプレゼントがあり、利用者の方も大喜びでした。

昼食は食堂をクリスマスパーティー風に飾り立て、ピザやグラタン、クリスマスケーキを食べて楽しみ素敵な時間を過ごすことができました。

鬼火焚き

1月9日に園グラウンドにて、毎年恒例の「鬼火焚き」を実施しました。金立町の地域消防団の協力を得ながら、門松や昨年一年間使用したお札やお守りなどを燃やし、災難が無かったことに感謝すると共に、竹が勢いよくはじける音で邪気（厄、災難、病気等）を払い、残り火で餅や芋を焼いて食べられ、利用者と職員で今年一年の無病息災を祈願しました。

また、焼いた餅や芋は、縁起物として法人内施設にもお届けしました。

佐賀向陽園・わいわい



クローズアップ

ご意見・苦情への取り組み サービス向上委員会の紹介

法人内各施設では、利用者、ご家族、地域住民の方々などからのご意見や苦情などに対応するために、サービス向上委員会を設置し対応しています。委員会は、利用者家族、地域住民代表者、施設職員、法人役員から構成されています。

また各事業所には意見箱が設置してあり、誰もが自由に意見や申し立てを行うことができます。

出された意見等に対しては、それぞれの事業所で対応をとるべく、定期的にサービス向上委員会で協議対応がなされています。また事業に対するご意見は、前に進むための大切なものとなっており、積極的に法人全体の財産として蓄積されています。

法人内福利厚生 湯布院保養所のご案内

平成21年の夏に開所した湯布院の保養所は、今年の夏で丸5年を迎えます。開所当時は利用・運用を軌道に乗せるために予約システムやルールづくり、消耗品や環境整備など試行錯誤を繰り返しました。その甲斐もあってか法人内職員に好評のようで、シーズンの土日は予約がいっぱいの状況です。利用料無料、飲料・調味料完備、保存のきく食材やお米も用意しています。また5.1chでのDVDが視聴できる52型液晶テレビ、お風呂はもちろん湧出量全国3位、源泉数全国2位の湯布院の温泉を引き込んでいます。3ヶ月前からの予約が可能で、これから夏のメインシーズンに向けてますます利用者が増えることが予想されます。ご家族、ご友人、同僚はもちろんのこと、法人内事業所での日帰り旅行や研修などでも利用されており、これからも法人内職員の福利厚生のために充実させていきたいと考えます。



はてな？キーワード

障害者虐待防止法



この法律は障害者への虐待があとを絶たないことを背景に世論の高まりから、平成24年10月1日から施行されました。

障害者基本法にある身体障害、知的障害精神障害を負う方々に対して、虐待の種類を、身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、放置、経済的虐待の5分類とし防止をうたっています。虐待を発見した国民には都道府県や市町村に通報の義務を課しています。福祉施設での虐待については、都道府県が調査の上指導しその状況と対応を公表することになっています。これに伴いすべての自治体に「市町村虐待防止センター」が設置され、都道府県に「権利擁護センター」が置かれています。

局長随想

法人広報誌がよいよ創刊されますが、法人事務局長に連載のコラムがあてがわれました。さて、何を書けばいいか悩んだ末「懐かしい」をキーワードにして書いてみることにしました。

そこで初回のテーマは「懐かしい食事」です。

食事代100円と聞いて人は何を連想されるでしょうか。今流行りのファスト・フードの一個当たりの値段を思い浮かべられる人が多いのではないのでしょうか。しかし、これがなんと1日3食分の食事代であるといえ、かなりの人は驚かれるでしょう。ちゃんとした、人間用の食事であることは言うまでもありません。

実は、これは約半世紀近く前になりますが、筆者が入学した大学の学生寮の1日3食分の食事代なのです。今でもその内訳を憶えています。朝食が22円、昼食・夕食がそれぞれ39円で、合計で100円でした。たった100円で、どのような献立だったのだろうかと思われるでしょうが、決して粗食、ジャンクフードではありませんでした。確かに朝食は味噌汁、たくあんの他に何が出ていたか記憶が鮮明でないで、多分それだけだったかもしれませんが、昼食・夕食はきちんとしたおかずが出されていたし、勿論栄養失調で倒れるような学生はいませんでした。それについても、調理の現場の職員さんにとって、1日たった100円の予算で、若い大学生の旺盛な食欲を満たしてやるための献立作りは、今から考えても大変な作業だったろうと思います。寮の給食は貧乏学生にとって、まさにライフラインであり救世主的存在だったわけで、改めて当時の調理のスタッフの方々に感謝の念を表したいと思います。それに付けても、いまやテレビを点ければグルメだ、大食いだと、過食、飽食の番組が花盛りのご時勢となっていて、まさに隔世の感を禁じえません。

翻って、いま我が法人内の各施設では、毎日約1,600食の食事が入所・通所の利用者の方たちに供されています。調理が直営の所と委託の所がありますが、この給食の提供に当たっては、我々も、常に利用者目線を忘れず、真に利用者に喜ばれ、感謝されるような食事作りを今後とも目指していく必要があると考えています。

ボランティア・施設見学・実習生受け入れ

(平成24年11月1日～平成25年2月28日)

ボランティア 貴重なお時間を頂きありがとうございます



【こども発達医療センター】	九電友の会 様 (柳佐電工 様 親和会 様 西日本高速道路メンテナンス九州㈱ 様
【オークス】	坂井ツキエ 様・坂井スミ子 様 (書道教室) 田村静二 様 (絵画教室) 川原アヤ子 様・大島京子 様 (生花教室) 小川敬子 様・木下千恵子 様 (音楽教室) 吉富大樹 様 (陶芸教室)
【かんざき清流苑】	鶴乃会 様 神舞太鼓・よさこい隊 様 ハワイアンフラ・フラハラウナーホクリイ 様 仁比山保育園 様 神埼保育園 様 音楽愛好会カノン 様
【からつ医療福祉センター】	折尾幸子 様 (パン教室) 川打恒子 様 (書道教室) 辰野真由美 様 (手芸教室) 田村静二 様 (絵画教室) 無津呂正 様 (陶芸教室) 昭和自動車株式会社 様
【かんざき日の隈寮】	的野 勝 様 (施設慰問)
【向陽園・わいわい】	傾聴ボランティア 様 日本赤十字社 様 視覚障害者協会 様 九州電力佐賀営業所 様 佐賀栄城ライオンズクラブ 様 水琴の会 様

施設見学 ご訪問ありがとうございました



【こども発達医療センター】	佐賀県立中原特別支援学校 様 佐賀私立保育園会 様
【からつ医療福祉センター】	伊万里市立清嶺中学校 様 唐津市立唐津幼稚園 様 伊万里特別支援学校 様 すみれ幼稚園 様 唐津特別支援学校 様 唐津市立西唐津小学校 様
【かんざき日の隈寮】	神埼町民生委員児童委員 様 よみたん救護園 様 鳥栖地区社会福祉協議会役員 様

実習生受け入れ 今後のご活躍をお祈り致します



【こども発達医療センター】	西九州大学 理学療法学専攻 1名 佐賀女子短期大学 介護福祉専攻 2名 医療福祉専門学校 緑生館 3名 佐賀市医師会立看護専門学校 32名
【オークス】	佐賀女子短期大学 3名 西九州大学介護福祉学科 2名 西九州短期大学 1名
【かんざき清流苑】	シルバー人材派遣センター ヘルパー実習 4名 佐賀女子高校高等学校衛生看護科 16名
【からつ医療福祉センター】	唐津特別支援学校 3名 西九州大学 理学療法学科・作業療法学科各 1名 西九州大学介護福祉学科 4名 武雄高等学校 3名(作業療法部門 1日体験)
【かんざき日の隈寮】	西九州大学短期大学部生活福祉学科 7名
【向陽園・わいわい】	西九州大学栄養福祉学科 1名 西九州大学介護福祉学科 1名 ジョブカレッジ佐賀校 1名

お知らせ

法人内行事予定 (抜粋)

4月		5月		6月	
1日	新規採用職員辞令交付式 法人内施設長等連絡会議	13日	法人内施設長等連絡会議	3日	法人内施設長等連絡会議
3日	開園祭・観桜会 (向陽園・わいわい)	11日	開苑祭(清流苑)	7日	スポレク(日の隈)
6日	花見会(清流苑) 春まつり(日の隈)	11日	社会見学(こどもセンター)	24日	カクテルパーティー (オークス)
20日	開園祭(オークス)	18日	体育大会(オークス)		
21日	開園記念祭 (こどもセンター) 退園児同窓会 (こどもセンター)	19日	体育大会(こどもセンター)		
		中旬	運営委員会(法人各施設)		
		28日	理事会・評議員会(本部)		



発行 社会福祉法人 佐賀整肢学園
住所 〒849-0906 佐賀県佐賀市全立町大字全立2215番地27 TEL 0952-98-2211 FAX 0952-98-3391
URL <http://www.saga-seishij.jp/>

こども発達医療センター

佐賀県佐賀市全立町全立2215-27
TEL0952-98-2211 FAX0952-98-3391
開設年月日/昭和35年4月1日



オークス

佐賀県佐賀市全立町全立168-1
TEL0952-98-3770 FAX0952-98-3772
開設年月日/平成9年4月1日



かんざき清流苑

佐賀県神埼市神埼町鶴2927-2
TEL0952-52-8890 FAX0952-52-9977
開設年月日/平成10年4月1日



からつ医療福祉センター

佐賀県唐津市双水2806
TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683
開設年月日/平成14年4月1日



かんざき日の隈寮

佐賀県神埼市神埼町鶴2950-2
TEL0952-52-2229 FAX0952-52-7229
開設年月日/平成20年4月1日



佐賀向陽園・わいわい

佐賀県佐賀市全立町全立801-1
TEL0952-98-1074 FAX0952-98-3145
開設年月日/平成21年4月1日

